

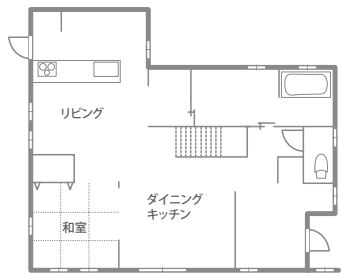
取材におじゃましたのはちょうど1年点検の日。1年住んでみた暮らし心地を尋ねると、「すごく暑かったり寒かったり、気候条件が厳しいほど、家の快適さを感じました」とご主人。ご夫妻が家づくりでもっとも大切にしていたのは、住宅性能。そこにドoramachickなリゾートのエッセンスを加えたのは「住まいこそ癒しの空間であるべき」というデザインリゾートの提案に心惹かれたからでした。

「耐震・耐久・断熱・省エネの住宅性能は今や当然のスペック。そこにリゾートから得る、癒しをプラスすることで、オンラインワンのプライベートリゾートのご自宅を提供できると考えています」という松崎社長。特に印象的なのはバリデザインをもっとも楽しめる外構と玄関です。アプローチの石敷きタイルを進むとバリ直輸入の門柱と表札。網代天井が南国ムードを盛り上げる玄関ポーチから扉を開けると、デザインリゾートの家ならではの砂岩レリーフがお出迎え。さらに、オリエンタルなデザインは間仕切りも可能な限りなくした室内にも続き、ナチニアルな配色のインテリアが憧れのヴィラのような雰囲気です。また、子育て世代ならではのオーダーにも応え、「キズや汚れが付きにくいフロアリングにしたり、細かな生活雑貨を収納する造作家具をつけてもらいました」と、洗練された空間の居心地のよさをそのまま維持できる工夫も。

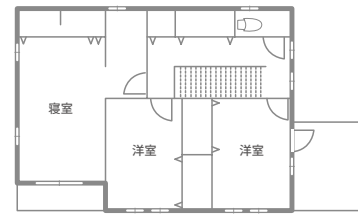
そんな話をしながら窓に目を向けると愛犬・モコちゃんと遊ぶ駿斗くんのはほえましい姿。「まだ空いている敷地にドッグランを作りたいんです」と語るご主人。T邸のさらなるリゾート化計画はこれからも続きそうです。



右上／アール垂れ壁と格子が空間に温かみを添えます。右下／部屋の境界を曖昧にすることでホテルのような開放感を実現。左上／バリの職人が作るエクステリアがお客さまをお出迎え。左下／使い勝手のいいデザイン。PCを置ける窓際のカウンターやニッチもいい雰囲気。



1F



2F



収納をたっぷり備えたママルームはキッチンと水回りを繋ぎ、家事動線もばっちり。



レリーフが飾られた玄関の仕切り壁は高さをあえて低くし、リビングへの開放的なつながりを演出。



上／子煩悩なご主人と洋裁が得意な奥さまの愛情をしっかりと受けて、のびのびと育つ2歳の駿斗(はやと)くん。仲良し家族のしあわせあふれるLDK。右／網代天井がオリエンタルなムードを醸し出す玄関ポーチ。「リゾートそのもの！」とゲストにも大好評。左／玄関収納下に間接照明を施し、温もりのある雰囲気に。床を広く見せる効果も。

